

概要版
鶴岡市障害者アンケート調査報告書
—第6次障害福祉計画基礎資料—

令和2年12月
鶴岡市

I 調査の概要

1 調査の目的

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第88条により障害福祉サービスの推進を図るため、各年度における障害福祉サービス・相談支援の種類ごとの必要な量の見込みその方策等の策定をする第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画を策定するにあたり、障害者等の実態やニーズを把握・分析し、改訂作業に向けて必要となる基礎資料を得ることを目的としてアンケート調査を実施しました。

2 調査の実施主体

健康福祉部福祉課 障害福祉係

3 調査の設計

(1) 調査対象者と抽出方法

- ① 市内に住所がある障害児及びその保護者
- ② 身体障害…身体障害者手帳取得者のうち、75歳以下の方で、64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ③ 知的障害…療育手帳取得者のうち64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ④ 精神障害…手帳所持者・自立支援医療(精神通院医療)受給対象者64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ⑤ 障害福祉に係る市内すべての事業者

(2) 調査方法及び調査期間

(実施方法) 郵送により対象者等あてアンケート調査票を送付し、郵送により回答を得ました。

(実施期間) 令和2年8月25日から令和2年9月13日

4 回収結果

回収状況は以下の通りです(カッコ内は前回調査数値)。

	障害児	身体障害者	精神障害者	知的障害者	合計
調査人数	255 (337)	1592 (1817)	1291 (946)	671 (701)	3809 (3801)
有効回収数	123 (182)	922 (1111)	541 (458)	344 (409)	1930 (2160)
有効回収率	48.2%	57.9%	41.9%	51.3%	50.6%
前回回収率	54.0%	61.1%	48.4%	58.3%	56.8%

5 この報告書の見方

- 身体障害者と知的障害者に対する調査では、最初に現在生活している場所（生活の本拠）について質問しました。本調査は、地域生活の実態を把握するために実施しているため、この質問で施設等に入所していると回答した方は、以降の質問では集計の対象から除外しました。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の各項目の回答の合計を足上げた場合、回答者数を上回るため、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、省略した表現を用いることがあります。
- 特定の選択肢を選んだかただけに質問するなどの質問の流れによっては、質問の回答者数が少なくなる場合があります。回答者が30人未満の場合、有効な分析をする回答者数を満たしているとはいえませんが、参考として図表あるいは集計の結果を示しました。

Ⅱ 調査結果のまとめ（共通調査項目）

※身体障害者、精神障害者、知的障害者には、共通の設問となっていたものがありますので、それらをまとめたものです。また、障害児も一部、共通の設問はまとめていますが、回答の選択肢が異なるものもあります。なお、障害児アンケート調査報告書は別冊にまとめました。事業所については、共通の設問はありません。

※コメント作成にあたって、回答数の少ない属性別や分類別については、特に重要な項目以外は触れていません。

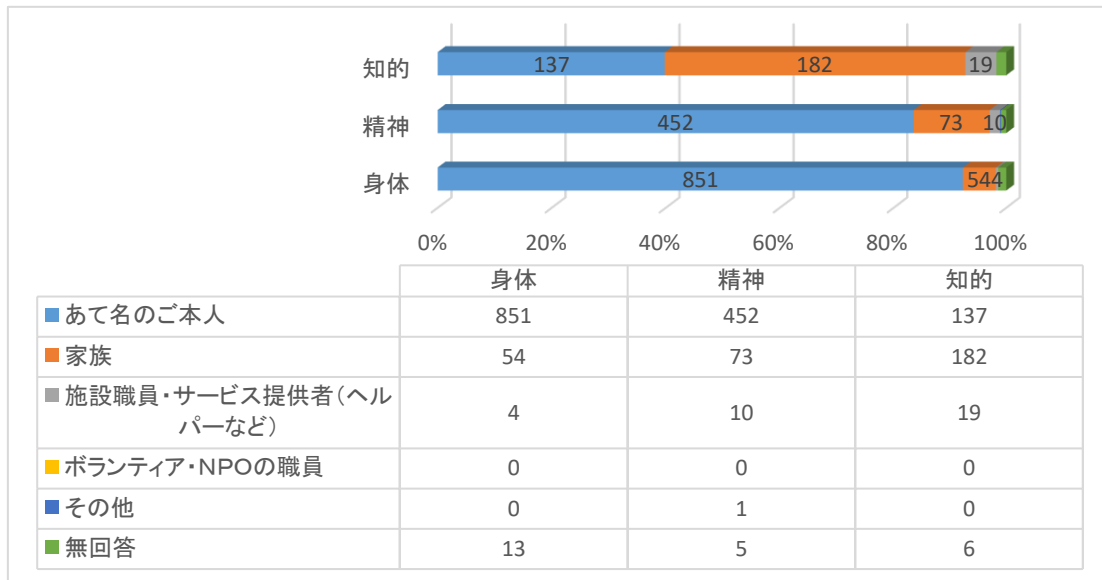
※記述欄は、誤字や脱字を含め原文のままとしましたが、個人名や住所、会社名や施設名など特定される表記は●●●と伏して紹介しました。

※回収結果について

前回調査の対象数3,801人と今回調査の対象数3,809人はほぼ同数でしたが、回収結果は、前回調査より6.2%マイナスとなりました。この要因は、調査の開始が6月15日から8月25日と2か月以上遅れたこと、調査期間が前回よりも数日短かったこと、新型コロナウイルスの影響による外出機会の減少などが考えられます。

まず、あなたのことについておたずねします。

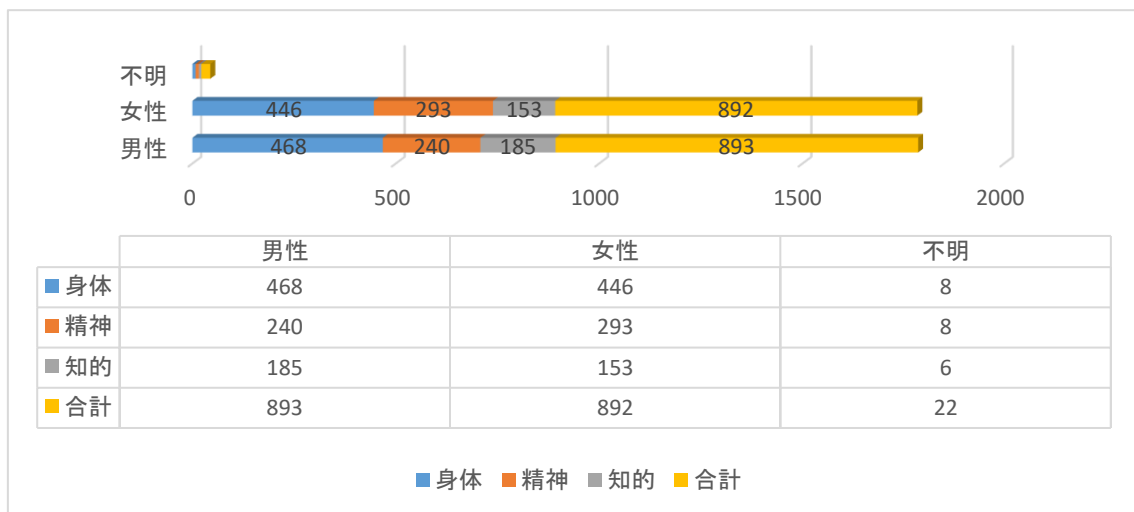
問1 この調査に回答していただく方は、どなたですか。(1つに〇)



身体…922人、知的…344人、精神…541人でした。

身体は前回同様に90%以上が本人回答でしたが、精神は本人回答が前回より少し下がり、83.5%でした。また、知的は過半数(52.8%)が家族回答でした。

問2 あて名ご本人の性別と令和2年8月1日現在の年齢をお答えください。



ご本人の性別は、男女とも同数(49.4%)でした。また、性別無回答も22人いました。

年齢構成では、全体で最も多く回答いただいた年代は、40歳以上64歳以下の方で、身体は65歳以上の回答が最も多く、精神は40歳以上64歳以下が最も多く、知的は39歳以下が最も多い結果でした。

問3 あて名のご本人がお持ちの手帳や障害について、あてはまるものすべてに○をしてください。

障害者手帳では、身体障害手帳取得者が最も多く全体の 56.3%でした。等級別では、1級が最も多く 29.5%でした。身体は、肢体不自由、内部機能障害の順で回答が多いのが特徴です。

知的は、身体等との重複障害もあるため、障害種別になっています。B 判定の回答者が多い (64.4%) のが特徴です。精神 (主に精神障害者保健福祉手帳取得者) は、精神通院医療の分類を回答欄に設けなかったため、精神通院医療のみの回答か、否かは不明ですが、医療または手帳所持不明の方が最も多いのが特徴です。

その他の障害では、発達障害が手帳取得者が多いのが特徴ですが、療育手帳取得者 (70 人) と精神保健福祉手帳取得者 (67 人) がほぼ同数となっています。

問4 障害者手帳をはじめて交付されたのはいつですか。(1つに○)

身体は 40 歳から 64 歳までの時期が最も多く、精神は 18 歳から 39 歳までが最も多く、次いで 40 歳から 64 歳となっています。また知的は、小学校入学から 39 歳までの時期が最も多く、次いで生まれてすぐから幼児期までの時期となっています。

問5 あなたが現在受けている医療の支援をご回答ください。

全体として、服薬管理が最も多く、身体では次いで透析、ストマとなっています。精神・知的では服薬管理以外の医療支援は極めて少ないのが特徴です。

問6 現在、あて名のご本人が暮らしているところは、次のどれですか。(1つに○)

全体では、障害種別に関わらず自宅で暮らしている方が最も多い (約 90%) のが特徴ですが、精神・知的では 10%前後がグループホームで暮らしています。

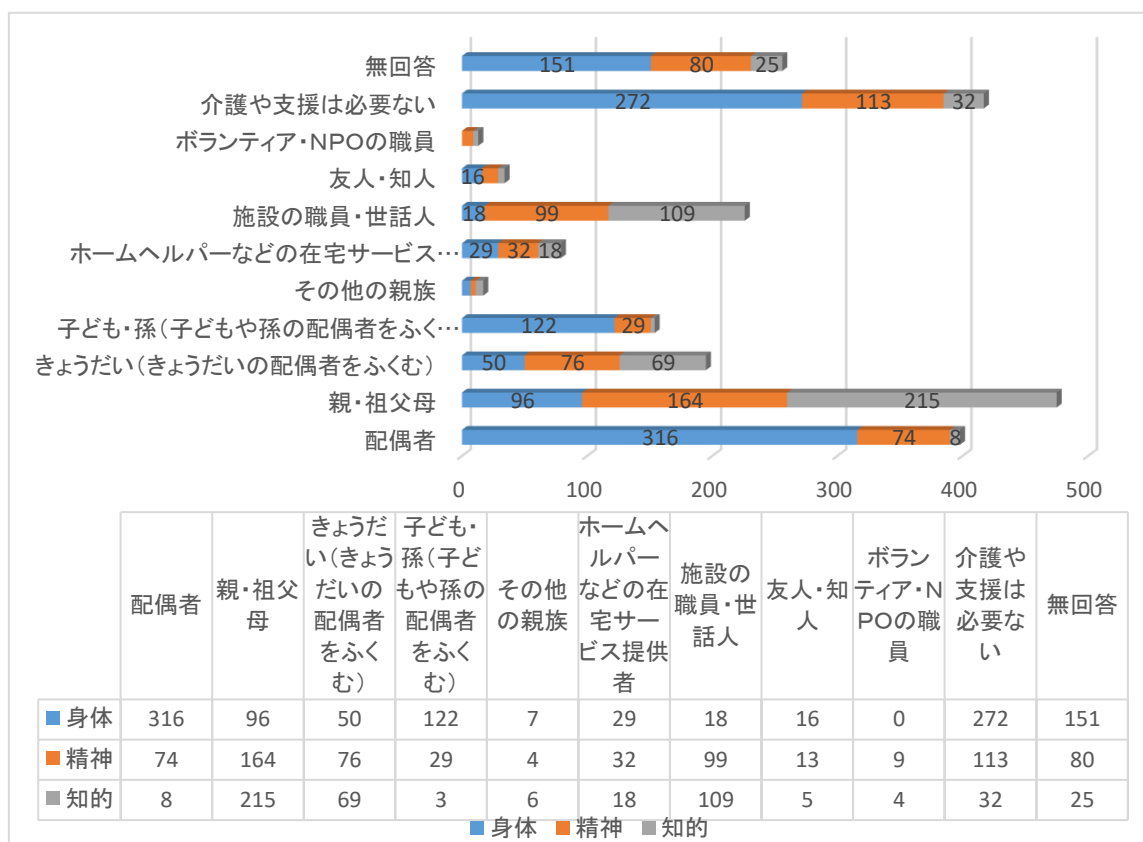
問7 あて名のご本人はどなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

身体は、配偶者と暮らしている方が最も多く次いで子どもと同居が多いのが特徴です。精神・知的は、両親と暮らしている方が最も多いのが特徴です。また、精神は一人暮らしが 26.6%と高く、知的はきょうだいと同居 (37.5%) も特徴となっています。

問8 あて名のご本人は、日常生活を送るうえで介助が必要ですか。(1つに○)

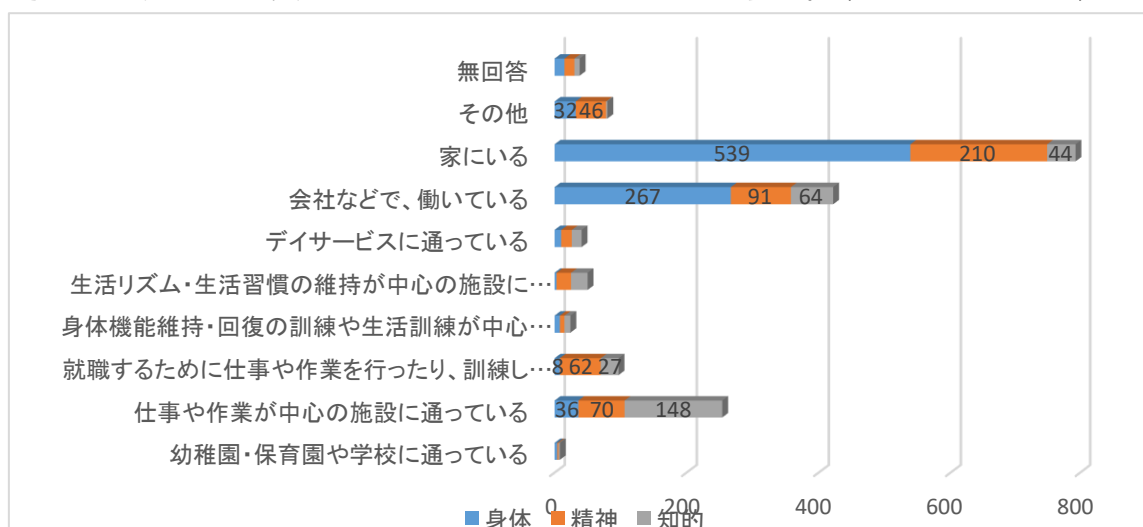
身体・知的では「ほとんど必要ない」人が多く、次いで「時々必要」となっていますが、知的では、「ほとんど必要ない」(36.3%) に次いで「生活のほぼすべてに必要」(23.8%)、「時々必要」(22.7%) も一定程度いるのが特徴です。

問9 あて名のご本人の介護や支援をしている人はどなたですか。
 (あてはまるものすべてに○、そのうち主に介護や支援をしている人1つに◎)



配偶者、両親が最も多く、次いで施設の職員・世話人となっています。

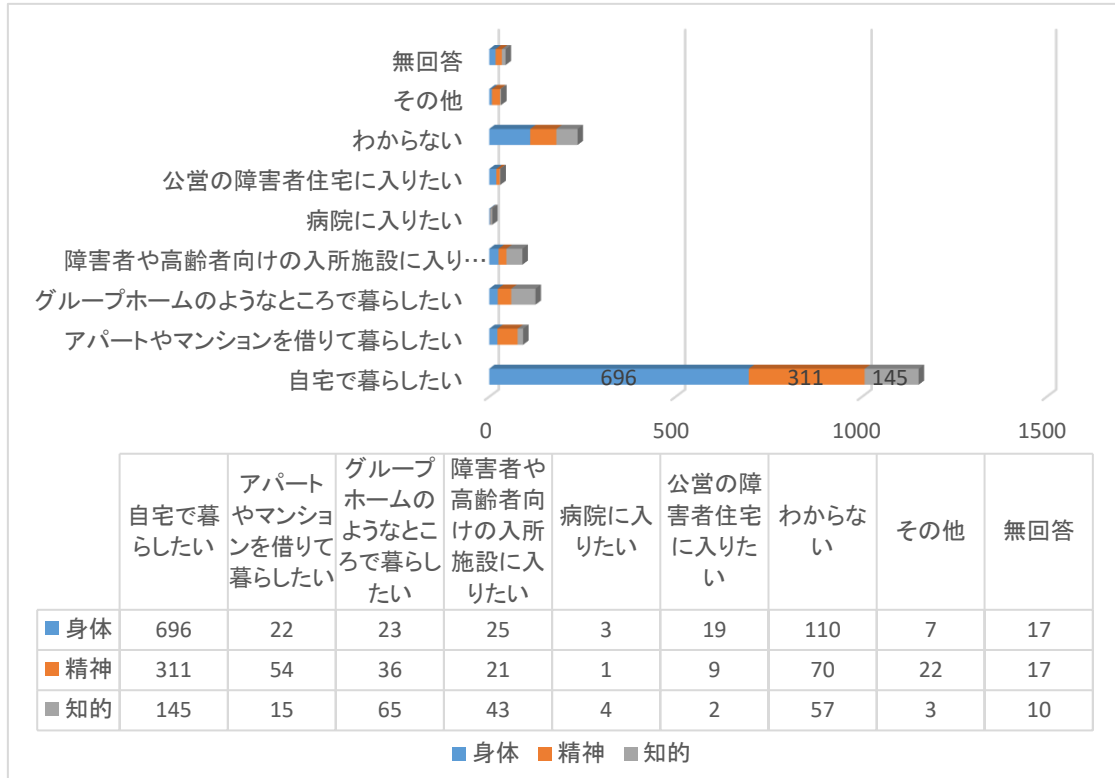
問10 平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(どれか1つに○)



全体では、「家にいる」人が43.9%と多いのが特徴ですが、身体では、「会社などで働いている」人も29.0%と多く、精神で・知的では福祉的就労が多いのが特徴です。

将来の暮らし方についてうかがいます。

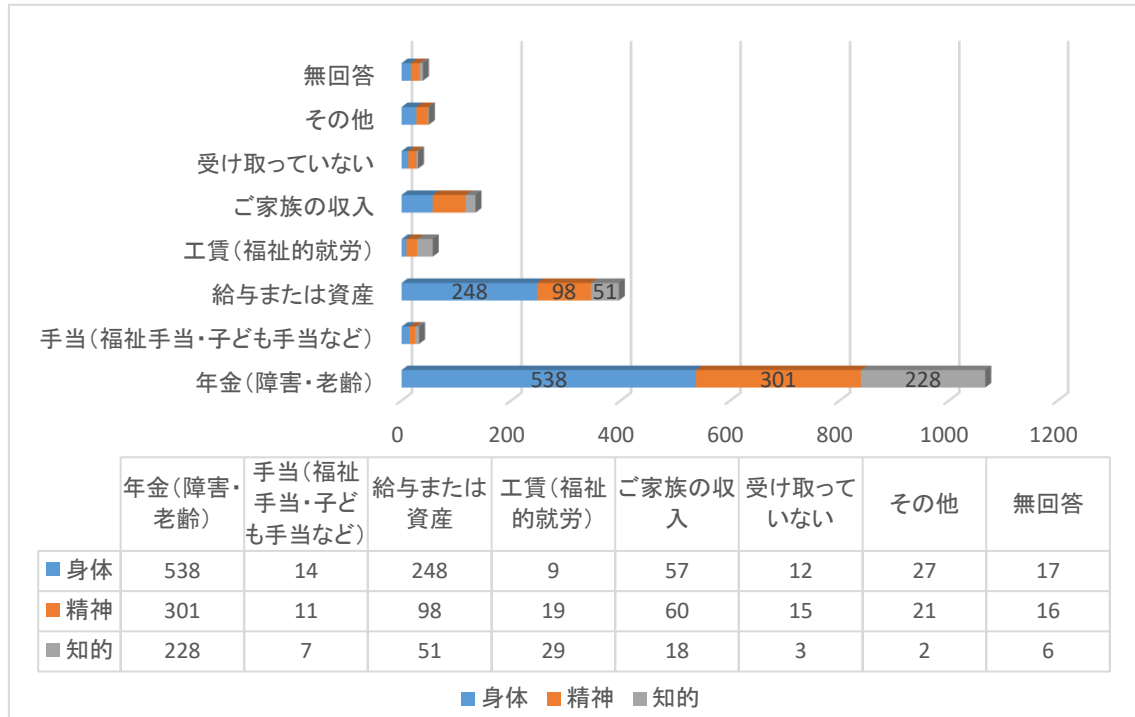
問 10 ご本人は、将来はどのような暮らし方を望んでいますか。(どれか1つに○)



どの障害の方も自宅で暮らしたいと望んでいる方が圧倒的に多いのが特徴です。精神は、自宅に次いでアパートやマンションを借りて暮らしたいが続き、知的は、自宅に次いで、グループホーム、入所施設を考えている方が多いのが特徴です。

仕事・就労についてうかがいます。

問 13 あて名のご本人の主な収入は、次のどれですか（1つに〇）



全体では、年金（障害・高齢）暮らしが一番多く、次いで給与または資産、家族の収入の順となっています。

問 14 ご本人は、現在、働いていますか。（1つに〇）

知的は働いている方が多く、身体・精神は働いていない方がやや多いが、身体は高齢者が多いことも特徴です。

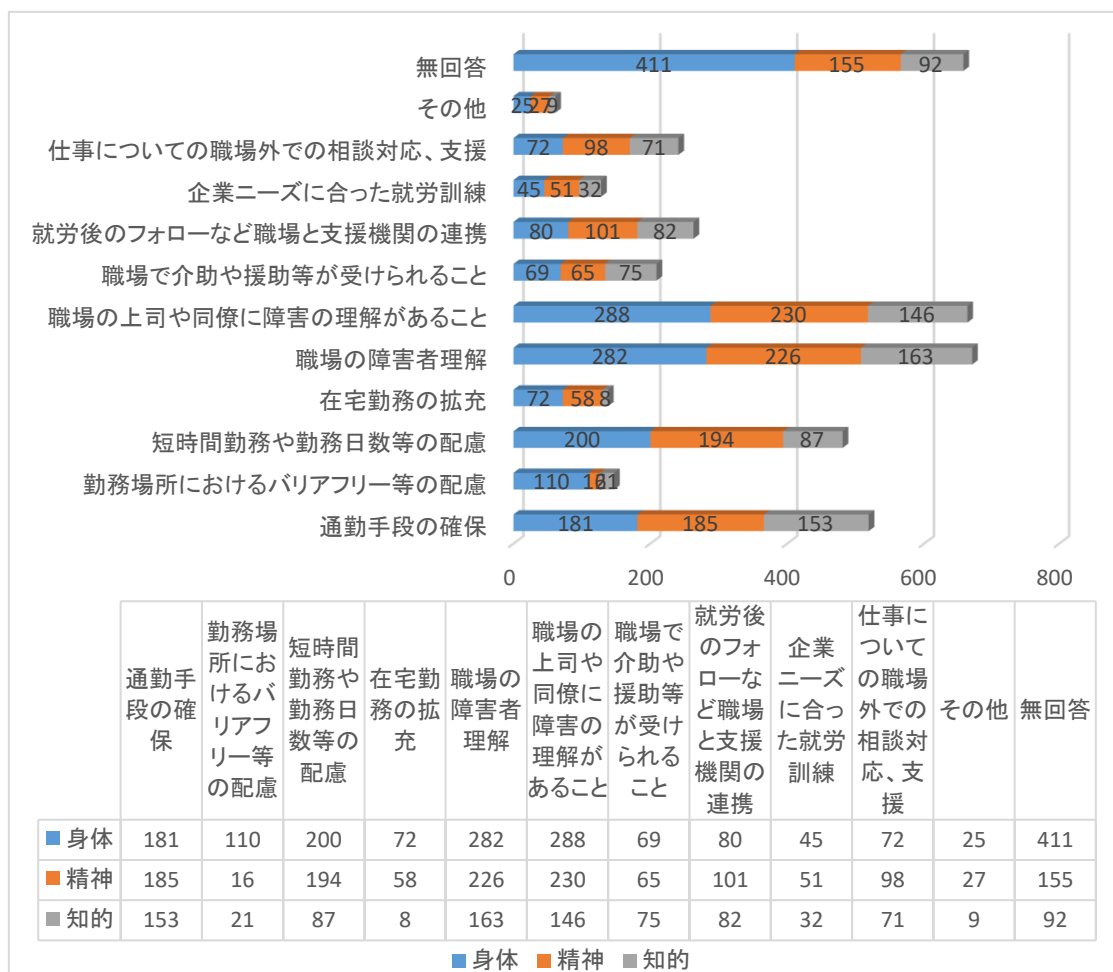
問 15 働いている場所はどこですか。（1つに〇）

身体は、一般就労する方が最も多く、精神、知的は、福祉就労する方が最も多いのが特徴です。

問 16 一か月でもらえる収入（月収）はどれくらいですか。差し支えない範囲でお答え下さい。（どれか1つに〇）

身体は、10万円以上が最も多く、精神、知的は1万円までの間が最も多いことがわかりました。障害種別で10倍の格差があるのが特徴です。この傾向は前回調査と同じです。

問 17 働くために重要と思われることに○をしてください。再就職の場合も含まれます。(あてはまるものすべてに○)

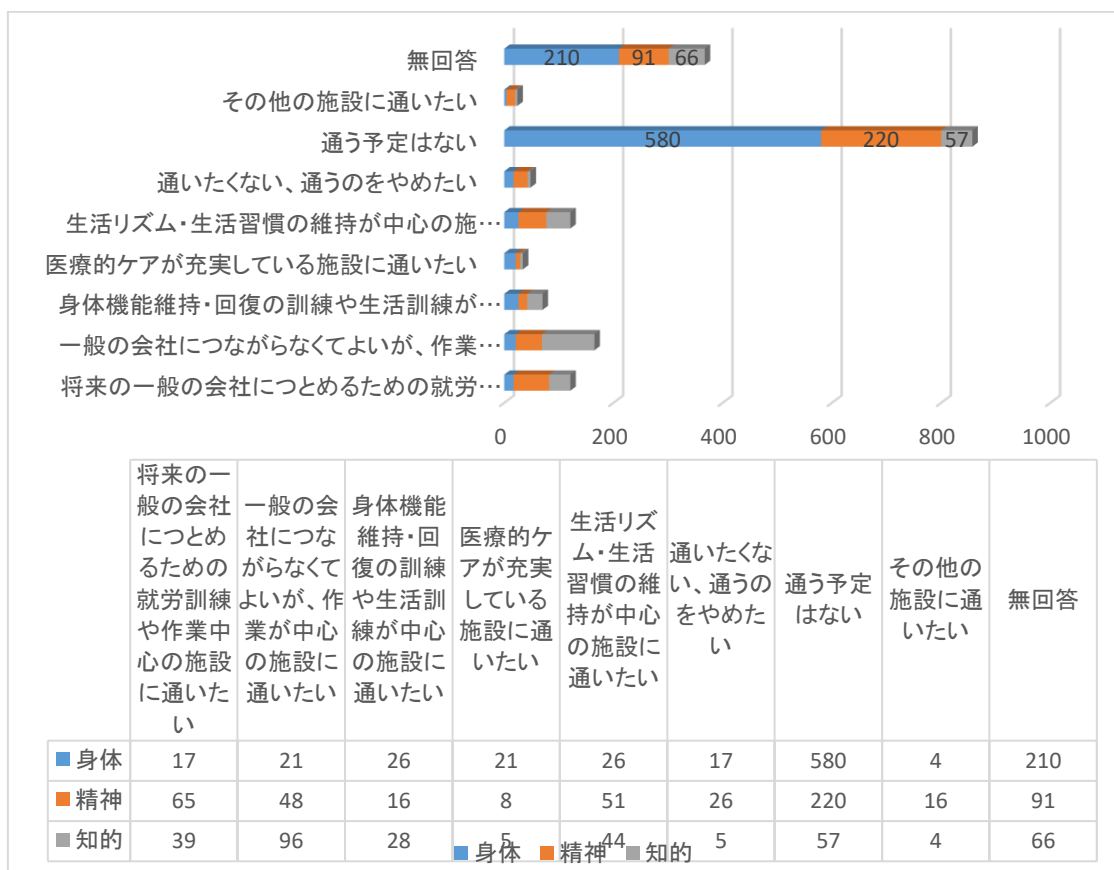


全体で、職場の上司や同僚、職場全体の障害の理解、障害者理解が最も多い。

次いで通勤手段の確保、短時間勤務や勤務日数等の配慮が働くためには重要であると前回調査と同じ傾向が出ました。

問 18 あて名のご本人は、今後、施設に通いたい（通いつけたい）ですか。（どれか1つに○）

通う予定はない、無回答を除いた場合、身体は各項目が均一的にばらけていますが、精神は、将来一般の会社に勤めるための就労訓練や作業中心の施設に通いたいと考えている方が多く、知的は、一般の会社につながらなくとも作業が中心の施設に通いたいと思っている方が多い特徴が出されました。



福祉サービスについてうかがいます。

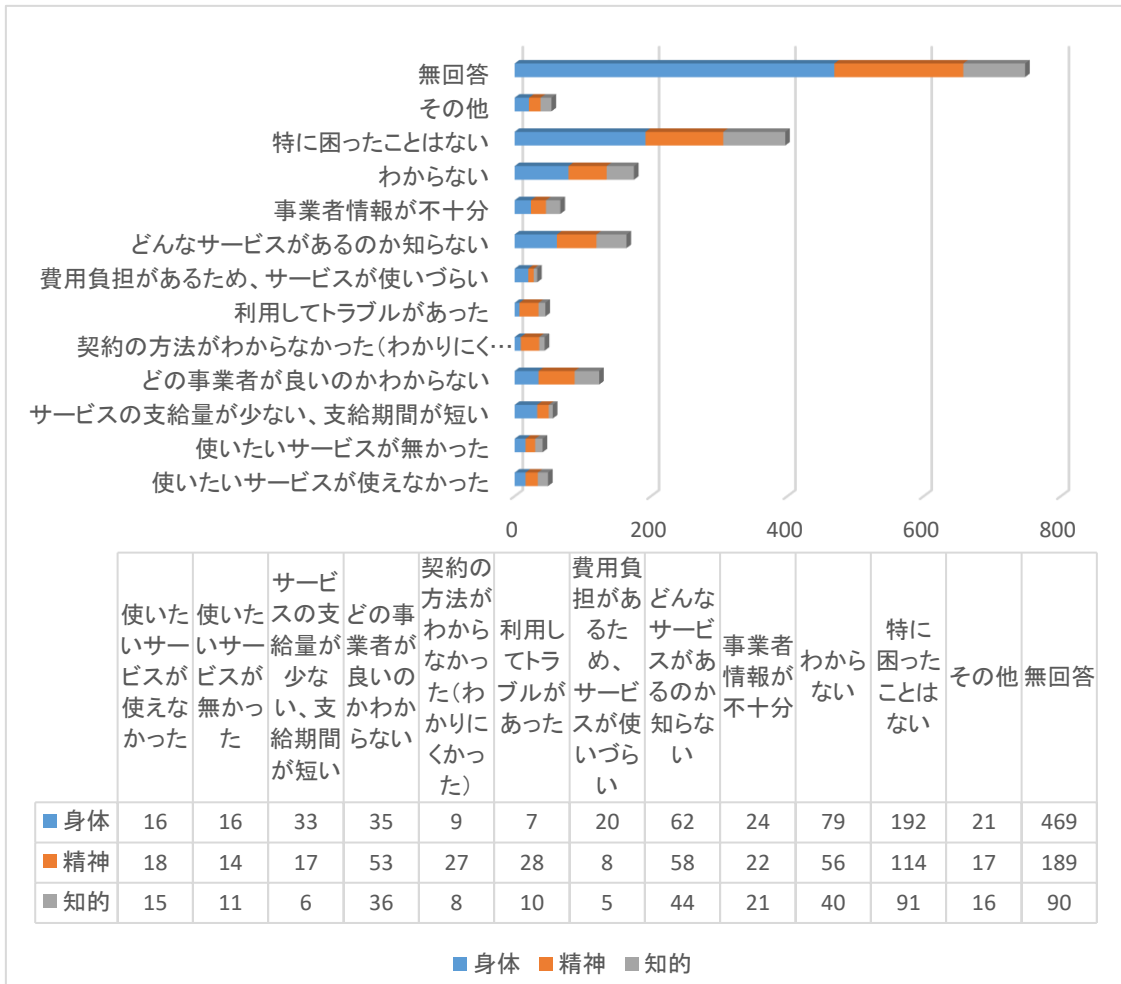
問 19 ご本人は、以下の福祉サービスを利用していますか（利用したことはありませんか）。（あてはまるものすべてに○）

	身体	精神	知的	合計
居宅介護・重度訪問介護（ホームヘルプ、日常の入浴、食事の介護）	24	24	20	68
ガイドヘルパーによる移動支援	10	9	2	21
訪問入浴サービス	11	1	4	16
短期入所（ショートステイ）	13	5	77	95
生活介護（介護が必要な方の日中活動の場）などの通所サービス	16	17	47	80
就労系サービス（就労継続支援A型・B型）	24	140	139	303
仕事につくため訓練するサービス（就労移行支援）	11	46	33	90
自立生活のための生活訓練等	14	45	28	87
手話通訳者の派遣	7	0	0	7
補装具の利用	92	1	10	103
日常生活用具の利用	32	3	4	39
紙おむつの支給	18	3	9	30
上記の福祉サービスは利用していない（したことはない）	416	162	55	633
わからない	43	44	18	105
その他	21	17	11	49
無回答	289	113	45	447

「福祉サービスを利用していない」を除きますと、全体で「就労系サービス（就労継続支援A型・B型）」が16.8%と最も多いのが特徴です。10%以上の利用では、身体は補装具

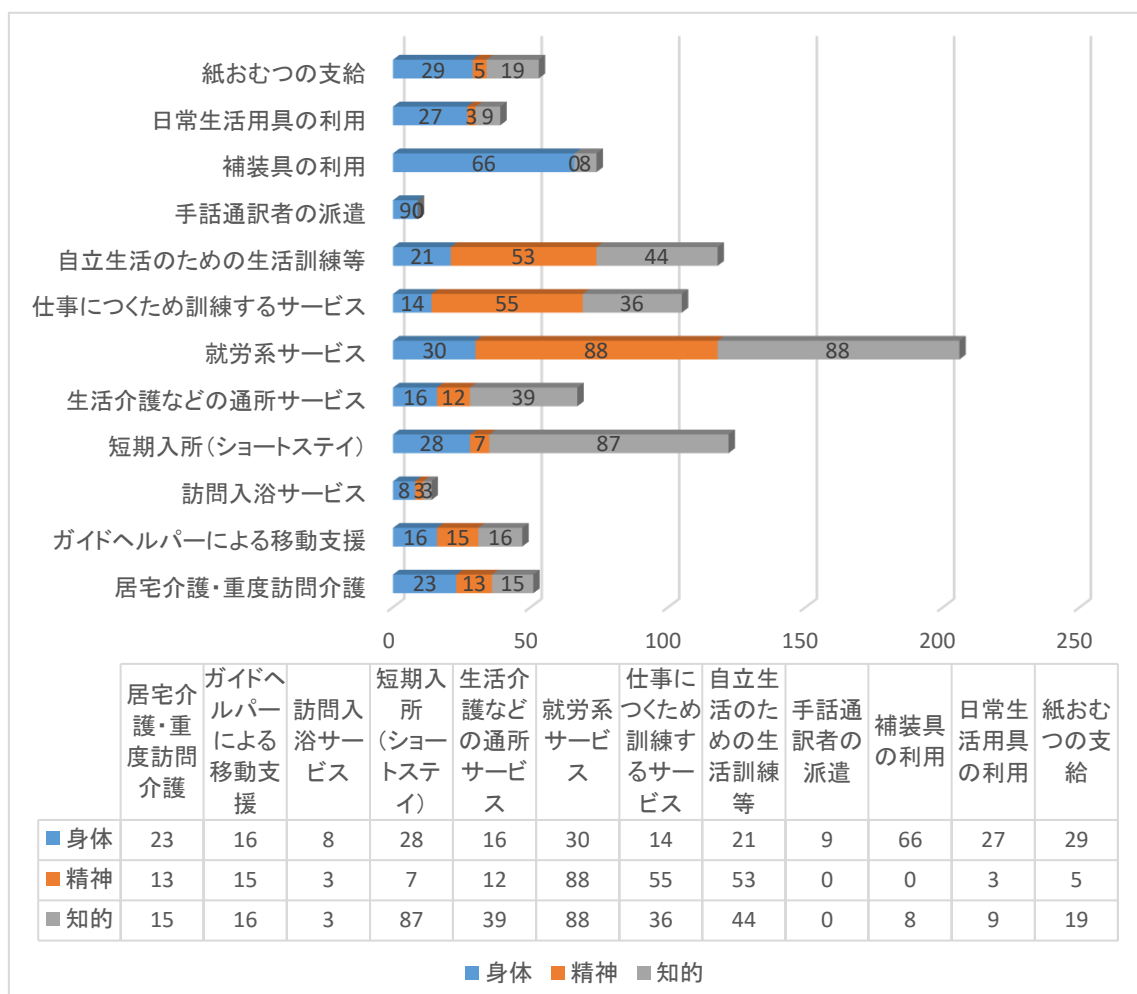
(10%)、精神は就労系サービス 25.9%、知的は就労系サービス 40.4%、短期入所 22.4% となっています。

問 20 福祉サービスを利用するとき何か困ったことがありましたか。(2つまでに○)



「特に困ったことがない」や「分からない」を除くと、全阿知では、「どんなサービスがあるのか知らない」が最も多く、次いで「どの事業者がよいかわからない」となっています。障害別に大きな差はありません。

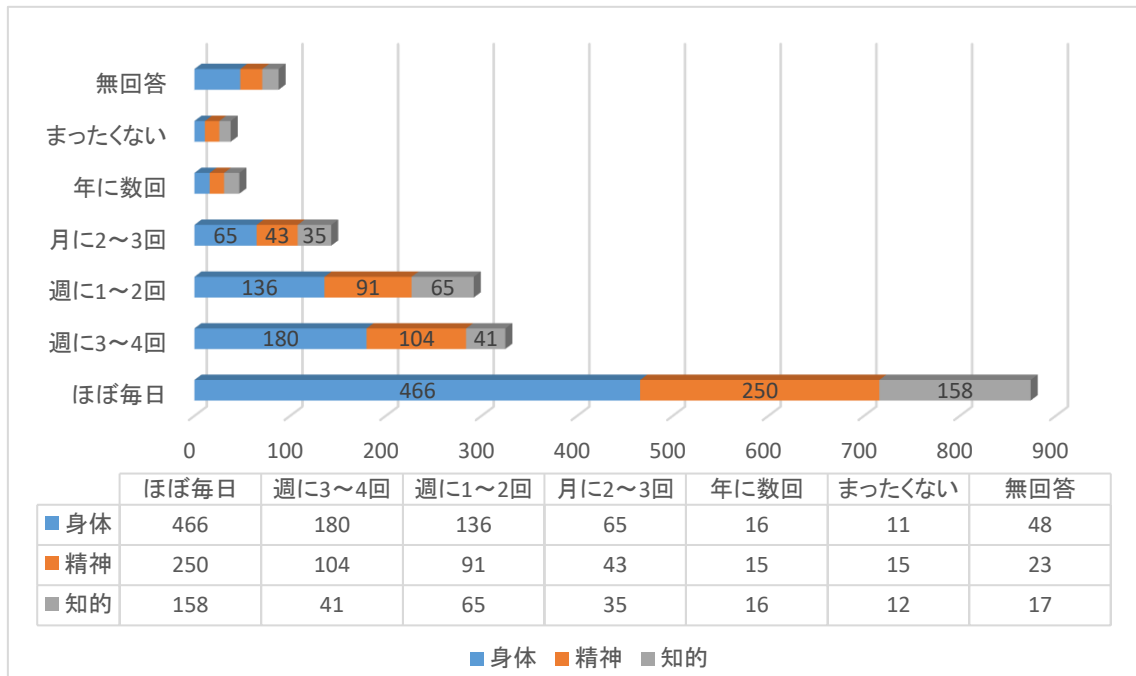
問 21 今後、以下の福祉サービスの中で、利用したいサービスはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)



就労系サービスが最も多く、次いで短期入所、生活訓練、仕事に就くための訓練となっています。身体では補装具や日常生活用具の利用も多いのが特徴です。

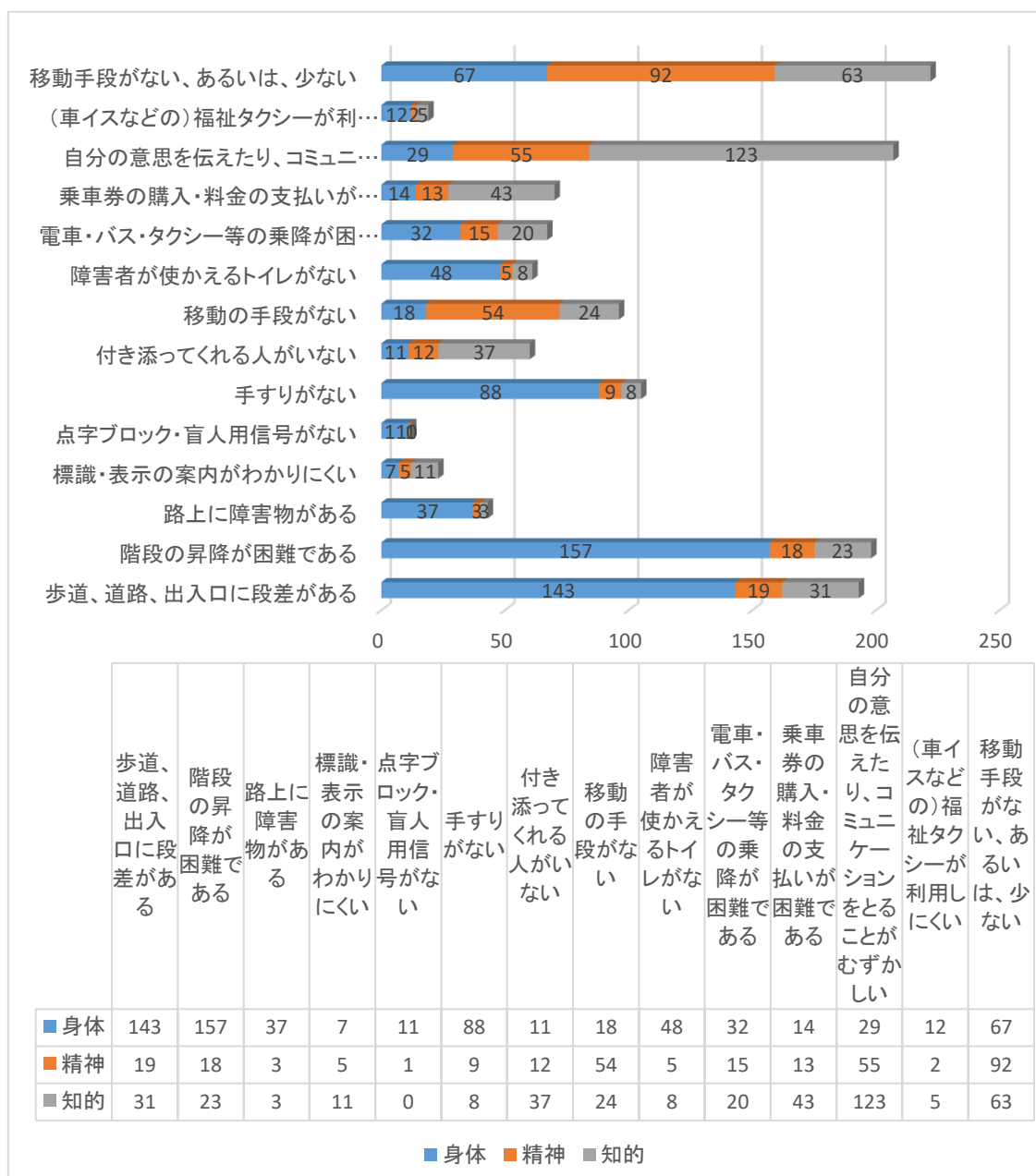
福祉のまちづくりについてうかがいます。

問 22 ご本人の外出の頻度は、どのくらいですか。(1 つに〇)



「ほぼ毎日」が最も多く、次いで「週に3~4回」「週に1~回」となっており、外出の頻度が高いことが示されました。

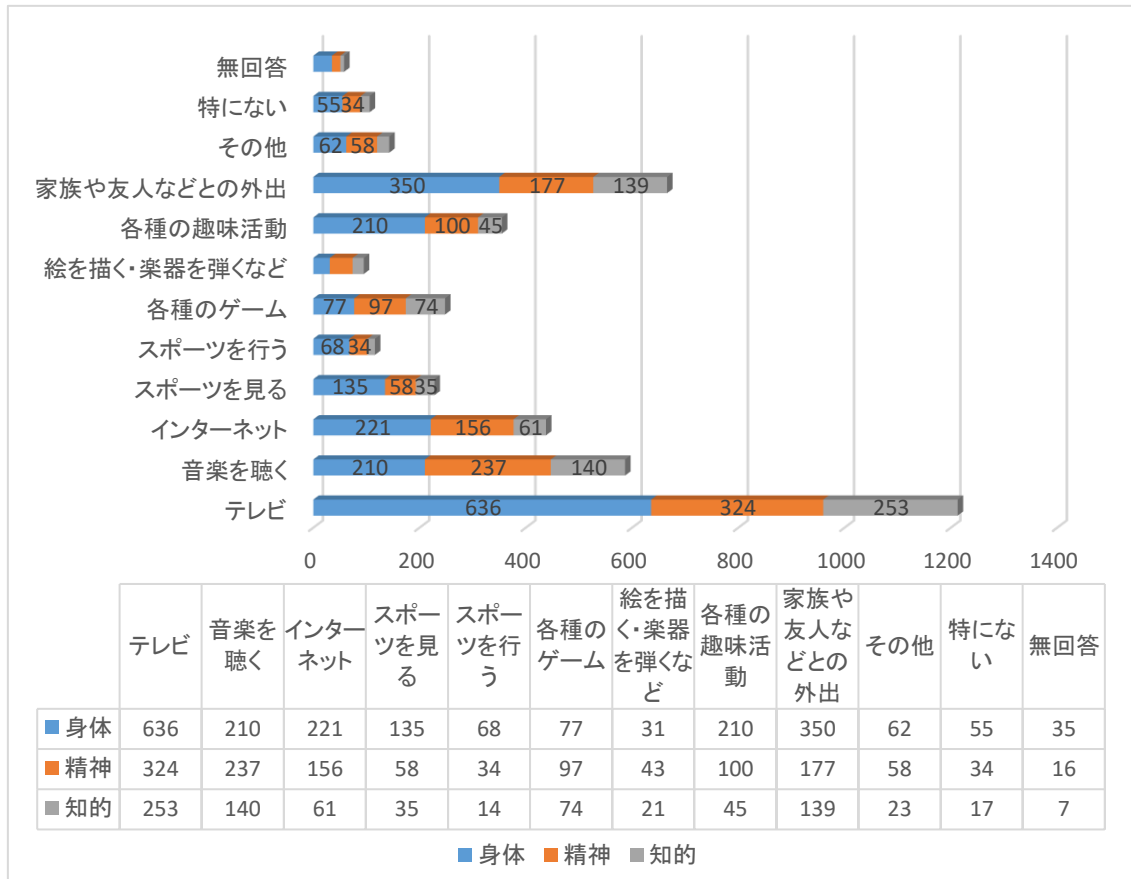
問 23 外出するときに困ったり不便に感じたりすることは何ですか。(3つまでに○)



全体では、段差や階段等の昇降などが最も多くなっています。身体では、他に「手すりがない」「トイレ」を挙げ、精神・知的では「コミュニケーション」「移送の手段」も挙げています。

相談についてうかがいます。

問 24 休みの日にご本人が楽しんでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



全体では、テレビが最も多く、家族や友人との外出、インターネットと続きます。身体では各種の趣味活動、スポーツのニーズが高く、精神・知的は音楽を聴くニーズも高いのが特徴です。

問 25 あて名のご本人は、生活の中で悩みごとや困ったことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

	身体	精神	知的	合計
教育・学習のこと	6	23	8	37
リハビリのこと	33	9	12	54
お金がないなど経済的なこと	252	233	67	552
家庭生活のこと	95	90	35	220
現在の援助（介護）のこと	16	23	20	59
将来の援助（介護）のこと	213	96	131	440
仕事や会社のこと	122	122	46	290
趣味や生きがいを持つこと	65	89	36	190
かかりつけの病院や歯科診療所がないこと	9	12	14	35
バスやタクシー、電車など交通機関のこと	58	65	42	165
家やすまい、住宅のこと	109	94	28	231
必要な情報を得ること	60	66	30	156
友達や相談相手を持つこと	46	89	34	169
地域の理解を得ること	34	58	32	124
結婚のこと	27	64	27	118
子どものこと	72	55	7	134
社会参加のこと	55	67	23	145
財産管理のこと	45	53	35	133
近所づきあいのこと	63	91	22	176
その他	43	27	18	88
無回答	281	97	77	455

無回答を除き、「お金がない等経済的なこと」、次いで「将来の援助（介護等）のこと」、「仕事や会社のこと」「家やすまい、住宅のこと」が多くなっています。

問 26 ご本人が生活をしていく上で、悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

	身体	精神	知的
家族や親せき	657	375	239
友だちや知り合い	260	129	48
近所の人	40	12	9
職場の上司や同僚	50	38	27
施設の指導員など	17	100	152
障害者団体や家族会	21	15	23
ホームヘルパーなどサービス事業所の人	17	36	19
民生委員・児童委員	9	5	3
医師や看護師	111	144	44
病院のケースワーカー	15	28	5
介護保険のケアマネジャー	17	5	3
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	0	3	9
市役所などの行政機関の相談窓口	62	43	17
障害者相談支援センター	44	52	89
市立あおば学園	0	0	1
相談支援事業所等の相談窓口	15	13	28
相談するところがない	33	22	8
相談するところがわからない	41	20	10
その他	17	23	10
無回答	93	39	16

家族や親せきが最も多く次いで、「友達や知り合い」、「施設指導員」、「医師や看護師」、「障害者相談支援センター」などが相談窓口となっています。

問 27 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

	身体	精神	知的
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	352	142	71
市役所などの行政機関の広報誌、ホームページ	382	116	72
インターネット(携帯電話を含む)	165	109	29
家族や親せき、友人・知人	183	117	87
サービス事業所の人や施設職員	34	85	108
障害者団体や家族会(団体の機関誌など)	45	21	32
医師や看護師	135	157	25
病院のケースワーカー	34	40	5
民生委員・児童委員	9	2	3
介護保険のケアマネジャー	15	5	5
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	0	3	7
行政機関の相談窓口	36	24	10
障害者相談支援センター	45	40	89
市立あおば学園	0	0	1
相談支援事業所などの民間の相談窓口	6	10	21
その他	18	20	9
無回答	124	74	54

「市役所などの行政機関の広報誌、ホームページ」「本や新聞、雑誌の記事」が最も多く、次いで「家族や友人・知人」「インターネット」「医師や看護師」「障害者相談支援センター」の順となっています。

障害者のための取り組みについてうかがいます。

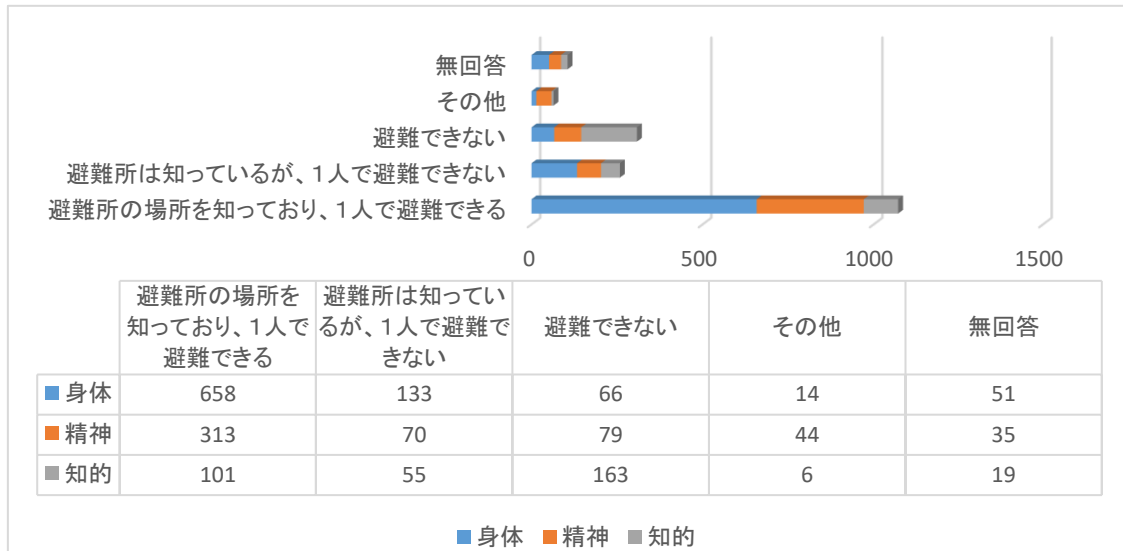
問 28 障害者が地域で自立して生活を送るために、重要と思う取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

	身体	精神	知的
相談窓口や情報提供の充実	362	221	132
障害の早期発見・早期療育体制の充実	114	111	54
障害特性にあった適切な保育、教育の充実	108	87	83
機能回復や地域生活に必要な訓練の充実	130	84	55
創作的活動や生活習慣習得などができる場の整備	46	76	40
ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実	106	64	34
日常生活に必要な移動支援の充実	146	96	64
グループホームなど地域での生活の場の整備	47	76	83
入所施設の整備	76	61	82
企業などでの就労に向けた支援や雇用環境の整備	145	131	57
障害への理解や交流の促進	146	157	104
ボランティア活動などの地域活動の促進	50	45	23
段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備	209	50	32
障害や病気に対する周囲の理解のための普及・啓発	251	199	104
特にない	104	63	31
その他	16	16	3
無回答	179	79	44

「相談窓口や情報提供の充実」が最も多く、次いで「障害や病気に対する周囲の理解のための普及・啓発」、「障害への理解や交流の促進」、「日常生活に必要な移動支援の充実」が重要と思う取り組みとなっています。

災害時のことについてうかがいます。

問 29 あて名のご本人は、1人で避難所に避難できますか。(1つに○)



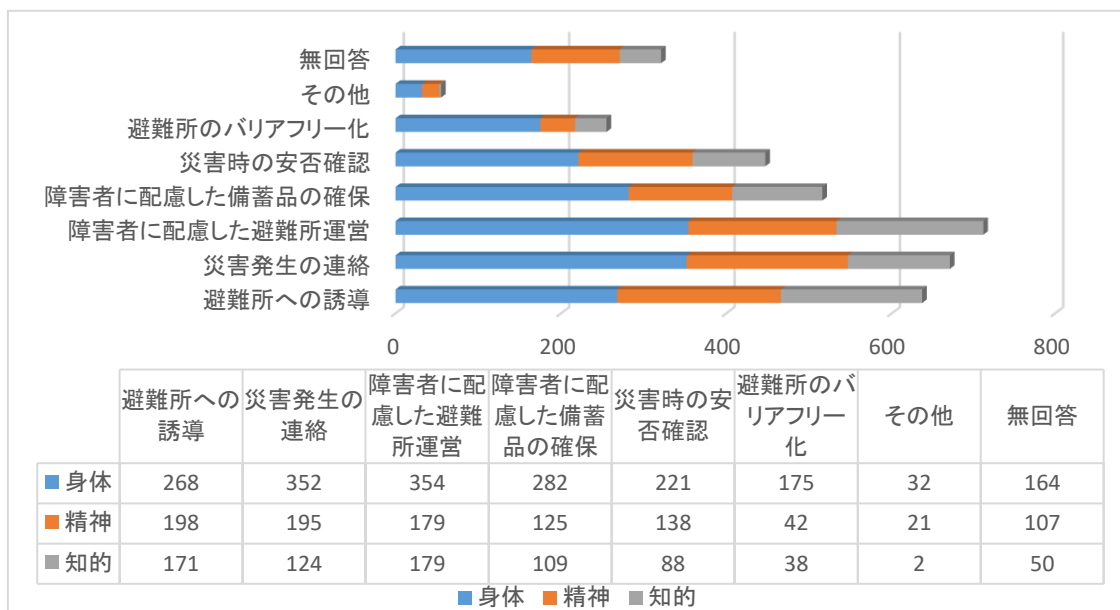
身体は、「避難所の場所を知っており、一人で避難できる」が過半数であり、次いで精神となっています。知的では、「避難できない」と回答した方がほぼ半数います。

問 30 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

	身体	精神	知的	合計
水や食料(医療食)	279	119	98	496
衣類やタオルなどの生活用品	177	69	67	313
薬や紙おむつなどの医療用品	134	53	40	227
杖や車いすなどの福祉用具	61	4	6	71
ヘルプカード・防災手帳	41	13	12	66
近隣の人等に手助けを頼んでいる	23	5	10	38
避難場所と避難の手段や手順を確認している	144	54	55	253
その他	18	22	6	46
特に何もしていない	415	302	164	881
無回答	49	35	19	103

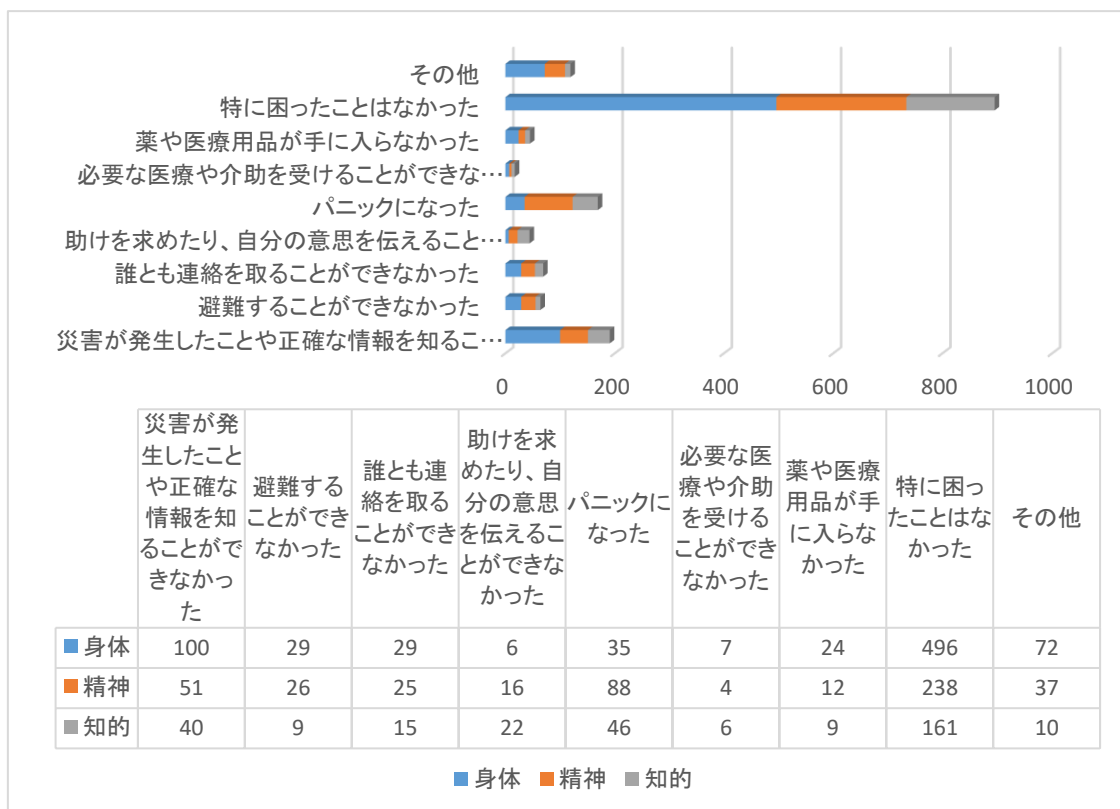
「水や食料(医療食)」が最も多く、次いで「衣類やタオルなどの生活用品」「避難場所と避難の手段や手順を確認している」「薬や紙おむつなどの医療用品」の順となっています。

問 31 災害時の支援体制については、どのようなものを希望しますか。
(あてはまるものすべてに○)



「障害者に配慮した避難所運営」が最も多いが、「災害発生時の連絡」「避難所への誘導」の希望も多い。以下、「障害者に配慮した備蓄品の確保」「災害時の安否確認」も続きます。

問 32 東日本大震災など、実際に体験した災害で困ったことはありましたか。



「特に困ったことはなかった」を除けば、「災害が発生したことや正確な情報を知ることができなかった」が最も多く、精神・知的では「パニックになった」が一番多い特徴が示されました。

問 33 あて名のご本人が、新型コロナウイルスの影響によって生活に変化が生じたことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	身体	精神	知的	合計
会社を解雇された	3	4	1	8
仕事がなくなった	50	22	12	84
施設や学校、事業所やデイサービス、デイケアなどに通えなくなった	11	21	15	47
工賃が減った	24	43	40	107
経済的にピンチになった	68	46	12	126
在宅福祉サービス（訪問看護、訪問介護など）が受けられなくなった	2	5	2	9
生活のリズムが不規則になった	73	59	37	169
街に出かける機会が少なくなった	405	188	147	740
友だちに会うことが少なくなった	347	120	52	519
TVを見る時間が多くなった	319	113	107	539
一人で過ごすことが多くなった	172	108	61	341
その他	60	59	35	154
無回答	208	132	87	427

今回調査で新設された項目です。「街に出かける機会が少なくなった」が最も多く、次いで、「TV を見る時間が多くなった」「友だちに会うことが少なくなった」「一人で過ごすことが多くなった」と続きます。

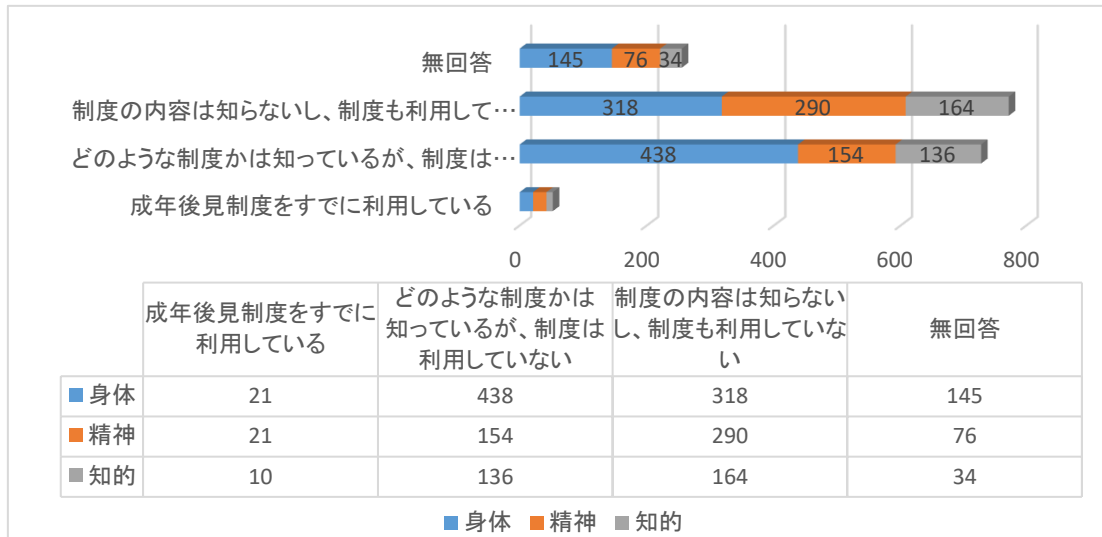
問 34 あて名のご本人が、新型コロナウイルスの影響で心身の変化が生じたことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	身体	精神	知的	合計
怒りっぽくなった	38	39	28	105
イライラすることが多くなった	74	73	64	211
気持ちが落ち込むことが増えた	126	111	31	268
身体的な不調が増えた	80	61	10	151
不眠が多くなった（または、眠りが浅くなった）	115	67	27	209
食欲がなくなった（または、体重が減った）	22	25	11	58
自分が感染したのではと不安になることが増えた	128	78	23	229
人に会いたくなくなった	105	64	9	178
運動不足で体重が増加した	175	115	68	358
家から出るのがこわくなった	156	83	28	267
その他	49	51	21	121
無回答	367	210	171	748

この項目も今回新設されました。「運動不足で体重が増加した」が一番多いですが、「気持ちが落ち込むことが増えた」「家から出るのがこわくなった」「自分が感染したのではと不安になることが増えた」「イライラすることが多くなった」「不眠が多くなった（または、眠りが浅くなった）」なども障害種別に大きな差はなく、高い数値が示されました。

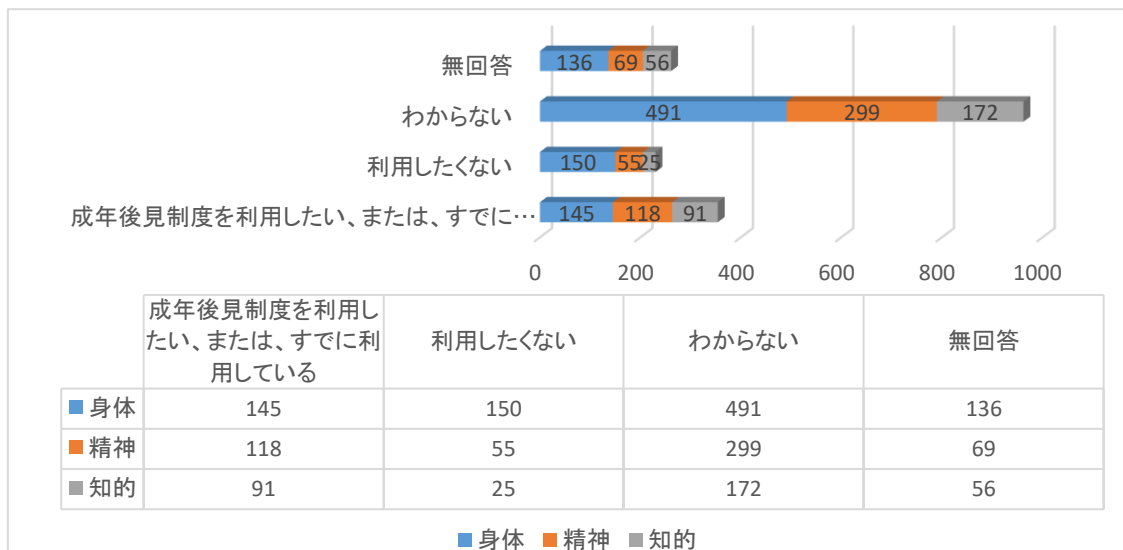
成年後見制度についてうかがいます。

問 35 認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度（※）」を知っていますか。（1つに○）



既に利用している方は極めて少なく、制度の内容を知ってはいるが利用していない方が多く、制度の内容を知らないと答えられた方（42.7%）も精神・知的には知っている方より多いのが特徴です。

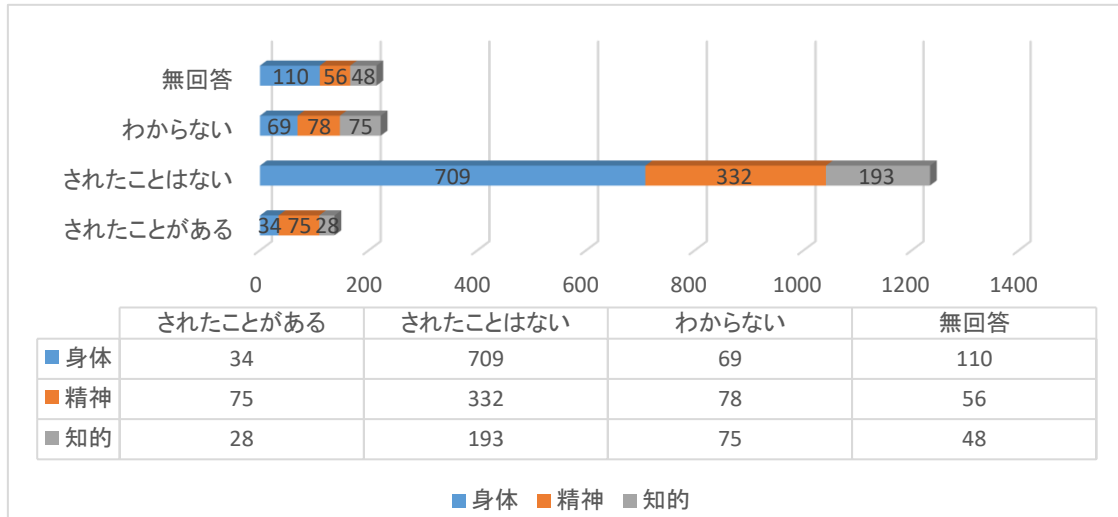
問 36 あて名のご本人が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか。（1つに○）



「わからない」が最も多く（53.2%）、全体の過半数です。しかし、今後利用したい方も20%近くいます。また、知的は「今後利用したい」が26.5%います。

虐待についてうかがいます。

問 37 これまでに虐待をされたと感じたことはありますか。(1つに○)



「されたことはない」は、68.3%と多いですが、反面、「されたことがある」も精神 13.9%、知的 8.1%と好きだから回答しています。

問 38 それはいつ頃、どこで、誰から、どのようなことをされましたか。
(わかる範囲内でご記入ください)

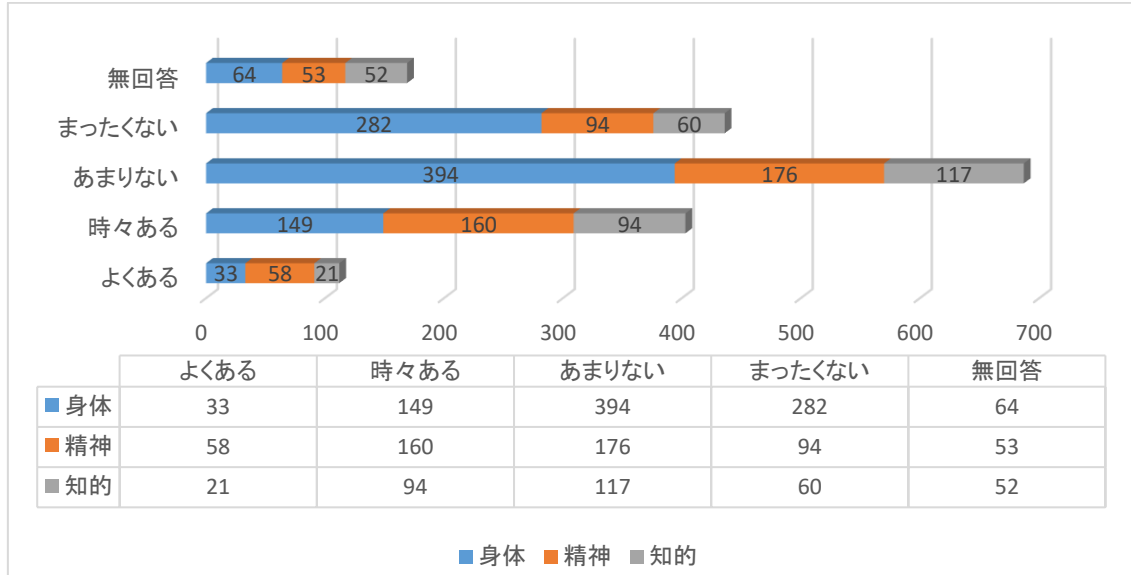
・・・111件

○主要内容

- 死ぬと言われる。ジャマと言われる。ぼう力を受ける(回数多)。
- 入院、退院をくり返す事により、職場復帰した時に手だすけをお願いしても無視、グループ活動にも仲間はずれ、おなじ職場に居づらい状態になり上司に相談したがしかたがないと言われた。
- 言葉のぼう力、父から「お前は生きる必要ない！」や「死んでしまえ！」や「じゃまだから家から出ていくか自殺してしまえ！」と言われる。
- たたく、外にはだしで出される、離れた小屋にとじこめられる、お風呂に入っているときシャワーの電源を切られ水で使う、食事を作ってくれない、暴言を言われる。
- 階段から、(何度も)よく、すべり落ちて腰を痛めたようですが、特に通院もせずにといたらしく、2017年に圧迫骨折が見つかり、以前から何度も骨折していたらしい事が判った。その為、寝たきりになる寸前だった。
- もし、イジメがイジメ等と表現せず虐待と表現されていたら。ありとあらゆる手を使ってイジメられてきた、カッターで切り付けられ、トイレの中に頭をつっこまれ、先生は無視、一度も親に連絡なし。

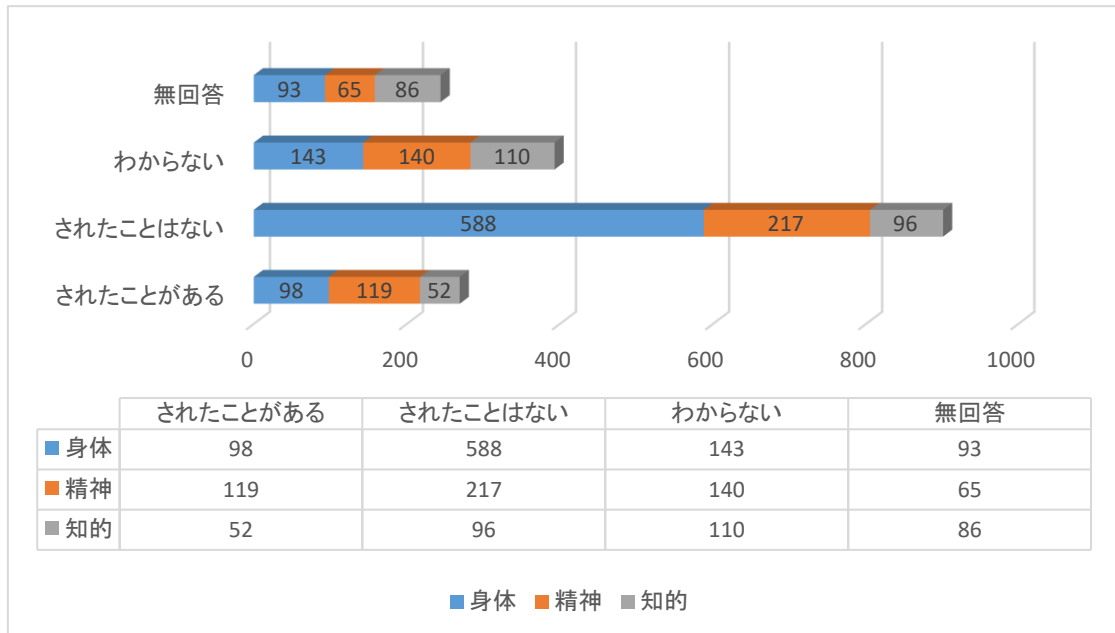
差別についてうかがいます。

問 39 障害者への差別を感じることはありますか。(1つに〇)



全体では、「あまりない」が38.0%、「まったくない」が24.1%と多いのですが、精神では「よくある」「時々ある」の合計が約4割で、知的では3人に一人ですので、決して少ないとは言えないようです。

問 40 これまでに差別をされたと感じたことはありますか。(1つに〇)



全体の約半数(49.9%)は「されたことはない」と回答していますが、精神は22.0%、知的は15.1%が「されたことがある」と回答しています。

問 41 それはいつ頃、どこで、誰から、どのようなことをされ、誰かに相談されましたか。(わかる範囲内でご記入ください)

・・・191件

○主な内容：

- 病気で入院し復帰後、産休で休む人は世の中に貢献しているが、病気で休む人は税金をむだづかいているからと言われた。その後会社を退職しました。
- 白杖をもっているだけで差別してくる人がいる。「じゃまくさいからこんなところ通るな」と言われた。自転車の乗り方危ない人がいる。白杖を持っているのにギリギリ自転車で通る人、自転車に乗った子どもをきちんと見守らない親に困っている。食料品は配達してもらっているが、たまにスーパーに行ってみたいことがある。行くと、心ない言葉を言う人がいて、がっかりする。
- 長年の嫌がらせ行為について訴訟をしたく診断書を書いてもらいたくて主治医に書類を渡しましたが拒否されて、弁護士を連れて行っても拒否され、看護師から差別発言をされました。
- 知能おくれなどといってくる、何もおかしいことしてないときでも全部私のせいにする、全部私が障害者だからといってわるくスリカエて大ゲサにしてベラベラいたる所にしゃべってハブにして仲間はずれにしてくる。他の人に私かわるく思われるようにいいふらす。その上で家の中のとくなくないことやいやなことを私にさせ何もしてないようにいったりバカにしてくるからかってくる。
- 差別ということではないのかもかもしれませんが、小さい頃は一緒に買い物等外出すると、周囲の人々の視線を不快に感じ、一緒にいた妹が一番その視線を感じ嫌な思いをさせていたと感じていた。心のバリアフリーが何よりも必要だと思う。
- 「こんな事も解からないのか」「早くして」無視されたり(あいさつしても)ろこつに関わるのがイヤというふうな顔をされた→この時は手張は持っていなかったけど雰囲気や言動でさっしていたと思う。
- 罵声をあびさせられたり、からかわれたりした。他に→※いつという事なく、スーパーやコンビニ等、外出先でじろじろ見られる。(特に本人は何もしてなくても…)
- 希望をもって中学校に入学させたいと思っていたのに「この子は中学校に行っても何もできませんよ!」といわれました。
- 入園申し込み時に障がいがあること等伝えていたにもかかわらず(入園許可ももらっていた)入園して、10日くらいで退園してもらいたいと、一方的にいわれた。
- 耳がきこえないことを理由に入会を拒否された。2時間くらいねばり、合理的配慮や差別解消法などを説明しながら訴え、入会をお願いし、やっとしぶしぶ入会させてもらえた。なぜ初めから入会拒否をせず快く受け入れてもらえないのか非常に悲しかった。

Ⅲ 自由回答結果

自由回答欄の記載は 413 件ありましたが、出来るだけ原文のまま項目別に分類しました。但し、「とくにありません」「ありがとうございました」「個人の特定やプライバシーが明らかになる表現」などは割愛しました。また、文字が薄く読み取れない表記や判読不能な表記も割愛しました。

1. 福祉に関する情報や相談

人生最後の時を迎える場所が心配なこと
今後の生活が不安。特に住まい、収入、結婚の事が本人は気になっているが、親として病気がこれ以上悪くならないで、今の状態なら最低限良いと思っている。しかし、親はいつまでも面倒みれる訳でなく、本人が一人になった時、どの様になるのか、生活能力の無いまま、生きていかれるのか不安です。
親亡き後の生活の準備をしなければならないと思うような生活の場がわからないし、ないように思う。兄弟（兄）にも負担をかけないようにしてあげたいと思う。不安はあるので行動しなければならないと思うがまだ動けずにいます。もっと情報を集めて進めていこうと思っています。
病気で働けず年金しか収入がなくこの先不安ばかりです、色々利用できる情報を知りたいです。教えてほしいです。
重度の知的障がい者の親離れをスムーズに行なえる方法や事例を知りたい。試行したい。

2. サービスの利用状況、要望、経済的支援

①年金、私は4級だけど正常者と同じ扱いにしてほしくない。早目に当り前に支給（まん額）してほしい。②正常なのに障害者（5級）手帳を頂いて自動車の税金など免除、駐車場の置きば車にマークをはって利用している人を知っている その人達は主に金持である 何かおかしいと思う。
私が病気になり、本人、家族が生活ができなくなり、たいへんな思いをした。借金をした。（カード）そんな時、一時生活保ごをうけたかった。今はなんとかか生活できる用になった。又、何かあったら？
今は両親が免許を持ってるので、なんとかなってますが、将来1人になったときに交通手段がないのが本当に困っています。免許に関しては担当医からドクターストップがかかって取れませんし…。1人でいいので（ヘルパーとかいらぬ）からタクシー無料か半額でOKだと助かります。ちなみに●●市では障害者手帳を見せるとタクシー10%オフでした。田舎は車がないと病院にも行けないので、半額まで安くしてくれないと困ります！
足腰の痛みの緩和、ストレスの解消の為に近くの温泉施設を毎日利用しギリギリ普通の生活をしています。が、利用料金も年間を通すとけっこうな金額になります。又施設が廃業となりますと、身障者や高齢者の心の拠り所がなくなります。身障者にも施設にも更なる支援をお願いしたい。

<p>他の子供と同じく医者に行ってもお金がかからないようにしてほしい。医者に行く所全部お金かかって大変です。 家に遊んでくれる人が来てくれると助かります。 本人が好きな事がよくわからない。 毎日が安心して安定した気持ちで本人がおくれる事が望ましい 老人ホームみたいに親も子供もいっしょに介護がうけられる所がほしい。 親も子供も安心できるように思います、ぜひ作ってほしいです。</p>
<p>障害や介護を問わず、普段の生活や通院（市外の病院への通院を含む）で安く利用できる交通手段があるとよい</p>

3. 外出、物理的バリアフリー

<p>歩く事が不便ですが障害等級で障害者用の駐車場（駐車マークがある所）を利用出来ない事が現在不便です。</p>
<p>信号が見えにくい バスの行き先（標示）が見えない バスの本数がどんどん少なくなる</p>
<p>・道路の歩行者と車の間の、道路境界線の白線が消えかかっている所が多くあります。交叉点の歩行通路も、消えています。どこを歩いているのか、わからなくなることがあります。是非修理してください。 ・信号の明りが小さい。大きいサイズの信号灯だと良いのですが。</p>
<p>市や行政がたずさわっていそうな建物でも駐車スペースやバリアフリー化が足りない部分も多くある。知識や情報が古い部分も多くある。当事者の意見をもっと参考に制度づくりや建物づくりをする重要性もあると思う。</p>

4. 仕事・就労

<p>具合がわるくても、休めないの無理をするのが後に入院が長引き、会社に居られなくなり退職となり、次の会社を探そうとしても障害があるためなかなか就職することが出来ない方が多くいると思います。支援して頂ければ有り難いです。</p>
<p>職場の健常者の方が障害者をもっと理解してほしい。もっと地域の人が支援を、してほしい。金銭面で、いろいろと、苦しいので支援をしてほしい。老人介護で健常の老人と障害を持っている老人を、わけて考えてほしい。</p>
<p>鶴岡市周辺の各企業等でも障害者向けのテレワークを幅広く進めて頂きたいと思います。企業が求めるスキルや条件をクリアできれば在宅勤務が可となれば障害者にとって就労の機会が広がると考えます。市の障害福祉部門にはぜひ、そういった障害者就労支援に力を入れて欲しいです。</p>
<p>雇用促進法における対象障害者が一般社員から仕事が不十分でもリストラ退職につながらない、利点を持つと陰口を言われても、社内に相談する窓口も、職制も無く実直に、維持して内容の有る業務内容と評価にすべく勤務にはげみました。</p>
<p>一般の会社でも障がいを持っている人を働かせてくれてはいますが、今だに差別や偏見を持っている人がいます。そういう障がいを持っている人を雇う場合は、雇う側の理解も必要だと思います。会社の上層部の人だけ分かっているでも実際に一緒に働く人の理解がなければ、いじめに繋がっていく場合もあると思います。しかしながら、障がい者雇用枠で働く本人も身だしなみや生活リズム等、気を付けなければと思っています。そのへんがしっかりしていないと、やっぱり障がい者だからと思われてしまうかもしれませ</p>

ん。幸いうちの息子は職場にも地域にも恵まれています。毎日生き生きと生活しています。最後にもっともっと、差別や偏見ない町になってほしいです。 母より

5. 災害

災害はいつ起こるか解りません。日本海沖地震でも「どこに行ったらよいか解らないので自宅に居た！」人が多かったです。要支援者名簿は出来ていますか？その人が何処の福祉避難所に行くのかまで決めて貰わないとイザと言う時困ります。私には声が掛けられて居ませんが名簿作成に同意するので通知して下さい。

言葉がわからない所がある。ホームヘルプ→ヘルパー 災害時避難所にも行けないし、どう対応すればいいのかわからない

私は幸いな事に日常生活をする上で不自由な事はありません。ただ外からは見えない障害の為に「ヘルプカード」というものが出来た事は大変ありがたく思います。何か災害の時、走ったり、重い物を持ったりする事が出来ない事を「ヘルプカード」で伝える事が出来ます。

災害時の避難所として、駅前のビジネスホテル等を利用させてもらえるとありがたい。（子どもの泣き声が苦手で、パニックになるので、避難所には行けそうにない。）

ハザードマップ 触ってわかるやつがあるといい。市の選挙情報 点字か音声化が欲しい。市の書類や封筒に点字があるとわかりやすいのでつけて欲しい。

6. 行政への要望

今年制定された「鶴岡市障害者差別解消の推進に関する条例」について、広く市民に周知啓発するために説明会を開催していただきたい。その際には具体的な事例を紹介して、条例の内容を分かりやすく解説してほしい。

コロナにしても医療としてどうするのか、どうしたらいいのか、社会情勢の中で変化している情報をこまめに届けて欲しいと思っています

夜間、介護タクシーの可動を働きかけて頂きたいと願います。（緊急時病院への利用に限り）

障害手帳を持っていても、何の恩恵もない。 保険のきかない、マッサージや整体でも使用できる様希望します。又、補正用のクツにも保険適用して欲しい。 手帳申請の前にどの程度のサービスを受けられるかを教えてもらいたかった。

障害者でも行政に対して 困っている事や考えている事を気軽に相談できる機会がもっとあれば良いと思います。今後鶴岡市街に住む人達は、交通の便が悪かったり、スーパーの引き揚げ等で増々生活しづらくなると思います。そこで障害のある人達や高令者もたいへんだと思います。

ストレッチャーを使ったハイヤー会社さんが会社を辞めた事で今後車イスでの移動（体がかたまって車イスにのれなくなった時）が出来なくなった時の病院への移動（診察の時）方法がなくなります。在宅介護と

言っていますが今後どのような対応を考えているのでしょうか？実際施設入所もすぐに出来るものでもないのでは是非考えていただきたい。

ひきこもり（気味）や障害者の居場所提供が、もう少し増えてほしい。居場所提供の時間も短い所が多いので、月に数回でも日によっていつもより長い時間いられるようなことがあればいいと思う。居場所提供が少ないのと、個人的に通いにくいいため、引きこもりがちになってしまう。コロナの関係で難しいかもしれないが、考えてみてほしい。

とにかく交通しゅだんがない。手帳3級でもタクシーチケットがほしい

7. 要望

ICD（植込み型除細動器について知らない人が多い もっと多くの人にしてもらいたい。

障害者の婚活をイベントにしてやってほしい健全者もまじえてやっていただきたいです。

本人は障害の為の治療によるストレスを家族にぶつける事を自覚しながらも抑え切れずお互い言い合ってしまう事が多々あります。今後支え合っていく上での色々な考え方など聞かれる場があればありがたいと思います。（もちろんコロナの問題が解決した後の事です） 乱筆、乱文申し訳ありません。

内部障害者は見た目にはわからないので障害者用駐車場に車を置かせていただいた時に、たまにジロジロ見られたり、文句を言われたりする場合があります。このような障害もあるのだという事を知っていただきたいと思います。障害のない人に許可証は発行してくれないと思います。

冬期間の除雪車 車庫前に大きな雪の塊を置かれると非常に困ってしまう（通院時に出れない） 一人暮らしで、力もない。

精神障害者保健福祉手帳3級を持っているが、持っているメリットが、とても少ないように感じる。特に田舎では、使用できることが少ない。

鶴岡市は（福祉）タクシー券が精神障害者福祉手帳1級の人しかもらえないのですか？精神障害は3年以上発作がおきなければ免許を取ることが出来ますがそれまで移動手段はバス。本数が少なく、とてもこまります。

障害者駐車場に、歩くことが出来る人がカードを持っていてとめてあったりして、車イスでない而降りる事が出来ない自分がとめられない事がたびたびある。高齢者がとめる事もあり、歩けてもとめてあるのはどうかと思う。（高齢者マークと身障者マークがごっちゃに一緒になってるのが問題だと思う）

障害者の福祉サービスの一覧があると、どんなサービス受けられるかわかりやすいので助かります。自動車税の減免適用範囲が拡大されると、助かります。

コロナの影響 家族など関東方面に出掛けた時、施設を使える使えない、又、期間、手続きの有無 はっきりと明記してほしい

他県ではバッジやシールなど聴覚障害者と分かるものを配布しているようです。コロナ禍で会話がしにくいので鶴岡市も何か目印になるものがあると筆談などお願いしやすいかなと思います。身障者手帳が30年前の写真です。症状に変化がなくとも、希望すれば更新できるようになるとよいと思います。

8. 将来への不安

70歳となり前より行動がたいへんになり、障害は変わらないようでも歩行に力がいらない行動がたいへんに思います。
今は車の運転出来ますが出来なくなって免許証を返した時に、どのように、買物、病院などの利用には、不安がいっぱいです。まだ自分は兄弟がいるから幸せですが先が不安です。お寺の事、家の管理等など！！
先々の事を考えると除雪、除草等どうすればよいのか心配です。
現在は、福祉サービスも大変行き届いていると思います。これから、高令化が肥大し、少子化で将来的にサービスに手が回らなくならないか我が子達の先々を案じてなりません。（母）
透析を受けており、災害時にどうなるか不安

9. 障害理解

職場での障害者への理解がもっとあるといい。健常者と同じ扱いをされるが辛い時も多々あります。特に歩行。駐車場から職場までのわずかな距離ですけど。でも頑ばります。
会社ではまだまだ障害者への理解が不足していると思います。自分の立場的に見ている事しか出来ません。
三障害と一緒にされるようになってから、それぞれの障害を比較されることが増えた。比較するものではないし、できないものなのに「精神障害は楽だから」と言われたりして、支援者さんたちの障害に対する感覚を疑うときがあります。発達障害を「わがまま病」と言う支援者さんや、事業所の中で利用者さんを差別する支援者さんにもう少し、障害者基本福祉法や発達障害者支援法を知っていただきたい。
今、新型コロナウイルスが流行り続けていく中、こうやって障害のある人が働いている人だけでなく、働いていない人がいる。健常者は「そういう人もいるよ。」っていう事に気付いてほしい。それを「常識」とか「頭が悪い」と決めつけるのはやめてほしいです。 これからの社会、一人一人がもし「自分が障害者だったらどう感じるか、そうされたらどうなるか。」を考えてほしいです。

10. 行政等への苦情

鶴岡市に移って約2年、他町村から見ると少しサービス面に欠けるなと思います。
更新の手続きが面倒。その為に診断書を貰いに酒田まで車で出かける必要が有る。支庁舎での手続きも同じ事の繰り返し
福祉サービスの情報を聞こうと福祉課に行った時、男性の対応が悪かった。わからない事を聞いたかったのに、何でもサービス受ける事は、出来ないんです！と言われショックを受けた。女性の方が相談・質問しやすいと思う。今でも、どんなサービス・何級以上の人はこの制度使えますとか、サービスありますとか、冊子を送ってほしい！

11. 重要なコメント

発達障害の傾向があるという診断を受けています。他にも白内障の手術後、目が疲れやすくなるようになり、上司に理解を得られず2月に退職しました。いわゆる「手帳」を持っていなくてもいくつかの障害・病気を合わせもっていると、仕事や生活が困難なのに、支援が少なくて生きづらいです。ALS患者が医師に殺された事件を見てうらやましかったし、障害者に生産性がないとする社会で生きるのは限界。「手帳」がある障害者の支援ばかりで悔しい。見た目が健常者だからこそ、障害者であることを苦しむ人がいることを知ってほしいです。

障害者差別について。 障害者差別を感情的に伝えるのではなく、どうやったらうまく伝わってより良くなるかという関係性の作り方が重要で、身近なことから気づき学びを得ることが大切だと思います。体験や理解を繰り返すことでそれぞれの状況の違いに気づくこともできます。

1、障害者もその親も、高齢になり老老介護+障害の子供の世話と過酷な状況にあるケースもありあす。障害福祉と高齢者福祉を全体的に支援することが重用と思います。 2、現在のグループホームは、ある程度自立度の高い人、(洗濯、部屋の掃除、作業所に通う)等が出来る人が対象になっているようですが、グループホームと入所施設の中間的な施設が必要。 3、差別解消法ができて医療従事者への啓発も重要。 4、家族の休息と、本人の精神的な負担を考えると、行ったことのない施設でのショートステイだけでなく病院でのレスパイト事業を是非考えてほしいと希望します。

障害者に対する経済的支援が圧倒的に足りない、お金の余裕は、心の余裕という言葉があるように、経済的不安がなくなれば、諸々の不安がかわされる。手帳の交付、等級認定や障害者年金の審査がきつくなる一方で、弱者が見ずてられてる感覚すら感じる

呼吸器管理が必要になるとショートステイをお願いできる施設がありません。日本海病院にレスパイト入院という形をお願いしていますが、予約でなかなか空気が無いのが現状です。 介護施設で受けて下さるのであれば、それでも助かるのですが…将来、母亡き後、姉に負担がかかることも分かっており、家族が倒れてしまわないように、福祉サービスを使いながら本人と幸せに暮らしたいと願っています。(夜間の長時間訪問看護のサービスはなく、医療的ケアが必要となると通常のショートステイでは受けてもらうことができません)

12. アンケートに対する意見・苦情

突然アンケート用紙が届いて驚いたがこんなに優しいアンケートは初めて書いたので少し嬉しかった。鶴岡市の方に、ありがとうございます。不自由なことがあって初めて行政の役割を知りました。これからもお世話になります。(ならないようがんばります)

突然のアンケート回答依頼に驚きましたが、助成も受けているし、年金のおかげで暮らしているので、まじめに回答いたしました。プライバシーは必ず守っていただきたいし、これが無駄にならぬように、活用してもらいたいです。

記入にあたっては、本人が読み、家族がアドバイスする方法をとりましたが、あまりの負担の多さに2時間を要しました。アンケート実施の主旨には賛同しますし、必要性も認めますが、過大なものは、本人のストレスとなりますので、実施方法を今一度ご検討願います。 家族

以上、報告といたします。